

ここでもしか得られないもの

メッセージを持っていました。毎日が講義、講義、講義…の講義の繰り返しで、人間関係も淡々としていたのではないかと思っていました。

ところが、実際に名寄市立大学に入学してみると、そのイメージはいい意味で大きく裏切られました。名寄市立大学はとても温かく、先生と学生の距離が近い大学だと感じています。

対して、先生と学生がただ講義で関わるだけの少し冷たい印象は、先生方は授業中だけでなく日常の中で

も気軽に相談にのってくださり、学習面でも多くの相談に親身になって耳を傾けてくれます。そのおかげで安心して学びに打ち込むことができ、大学生活の不安が小さくなりました。

こうした温かい環境は、この大学ならではの魅力だと思います。

また、名寄市立大学は他の大規模大学と比べると学生数が少なく、キャンパス内ですれ違う顔は自然と覚えられるよう

になります。先輩後輩の関係がとてもよく、授業のことや課題・試験についてなど気軽に相談できる環境があります。

廊下や食堂で先輩に会った時に声をかけてもらうことも多く、学年を超えてつながりが広がっているのを感じます。人数が少ないからこそ

のアウトホームな雰囲気は、名寄市立大学の大きな魅力の一つだと思います。さらに学習面においても、多くの刺激

を受ける機会があります。栄養学科では、通常の授業に加えて、実際に病院で管理栄養士として働いている先生や、他の大学で栄養に関する研究で活躍している先生が実際に大学に来てくださり、講義が行われることがあります。

現場でのリアルなお話を直接聞けるのは非常に貴重であり、自分が将来どのような働き方をしたいかを具体的に考えるきっかけになっていきます。例えば、病院での管理栄養士の役割や患者さんとのかわり方、研究職として



す。

このように、名寄市立大学は学びやすく温かい雰囲気にあふれ、先生方や先輩後輩とのつながりが自然に生まれる大学です。入学前に抱いていた「大学」堅苦しい場所」というイメージはすっかりなくなり、今ではここで学び、ここで人と関わることができて本当に良かったと感じています。

栄養学科2年

本山 凜

のキャリアの歩み方など、教科書だけでは学べない生の体験談に触れることで、学ぶことの意味が一層深まるなど感じま